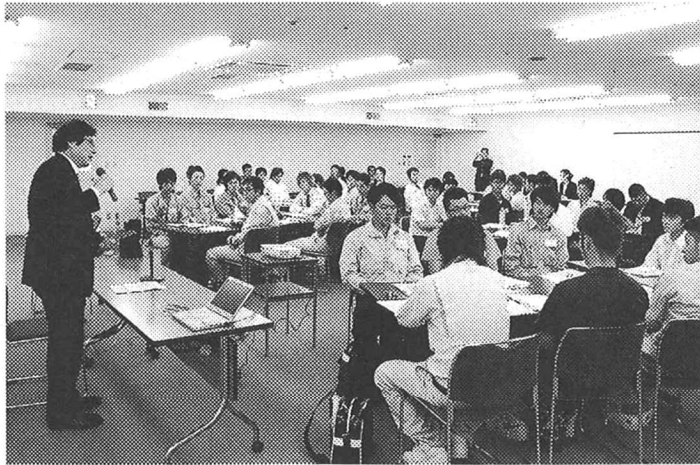


入職3年以内対象「若者塾」

中部圏広報ネットワーク協

中部圏の各建設業協会などからなる中部圏建設広報ネットワーク協議会は3、4の両日、名古屋市内で主に入職3年以内の建設業従事者を対象とした「建設若者塾」を初開催した。岐阜、静岡、愛知、三重各県から技術職のほか、土木、型枠大工、鉄筋、とびなどの技能職の若手45人が参加。1泊2日の合宿を通じ、県域や職種を越えて交流を深めた。

3日の研修では、八ヶ岳中部地方整備局長が講話。近年、災害が多発しており、災害復旧に当たる建設業に対する国民の期待が高まっていることなどに触れ、「建設業は重要で



県域、職種越え交流深める

やりがいのある仕事だ。自信と誇りを持って従事してもらいたい」と述べた。また、若者の入職促進に向け、「皆さんが一生懸命働く姿を子どもたちに見せてほしい。よいものをつくることはもちろん、服装にも気を付けて、世間から『建設業はカッコいい』と思ってもらえるよう努めてほしい」と要望した。写真。

講義では、東海工業専門学校金山校の野村種明教務部長が、建設業で働くことの社会的意義について講演。ハタコンサルタントの降旗達生代表取締役が「建設業で本当にあつた心温まる物語」を動画で紹介するとともに、日ごろの心構えや生活習慣など一流の職人になるための計画のつくり方などを指導した。講義後の交流会では、腕相撲大会などを行い、親睦を深めた。4日は、現地研修として名古屋市が建設を進める名古屋城本丸御殿の現場などを見学した。

同協議会は若年者の入職を促進などを目的に、日本建設業連合会中部支部と岐阜、静岡、愛知、三重の各県建設業協会が、全国に先駆け2013年11月に設立。オブザーバーで建設産業専門団体中部地区連合会と中部整備局、愛知労働局、愛知県建設部が参加している。